

平成 16 年 8 月 20 日

お得意様 各位

## 生薬の残留農薬に関する新聞報道について

株式会社ウチダ和漢薬

平素より格別のご愛顧を賜り、誠にありがとうございます。

さて、本日（8 月 20 日）の朝日新聞（朝刊）1 面に、「生薬から残留農薬 厚労省研究班 半数サンプルで検出」の記事が掲載されました。これは厚生労働科学研究の特別研究事業として行われた研究で、調査は国内 8 カ所で販売されている各社の生薬（製造会社として全 9 社）を幅広く収集して実施されたものです。

本記事に関しての弊社の状況について取り急ぎお知らせいたします。

まず、有機塩素系農薬については、チンピ、ビワヨウなどから 0.2ppm を超える総 BHC、総 DDT が検出されたと報道されています。ご存知のとおり、現在、生薬中の農薬規制として、日本薬局方でニンジン、ニンジン末、コウジンおよびセンナ、センナ末に総 BHC と総 DDT 各々 0.2ppm 以下という残留基準値が設定されておりますが、既にご案内のように、弊社では平成 14 年 8 月 1 日から、基本的に全ての輸入生薬を対象に原料の全ロット検査を実施し、全ての製品について 0.2ppm 以下の基準をもって製造しておりますので、報道で取り上げられたチンピ、ビワヨウなどについても、弊社の生薬としては何ら問題はございません。

有機リン系農薬については、記事ではカンゾウ、サンシュユなど 5 品種と報道されておりますが、5 品種の中にはソヨウ、チンピも該当しているようです。弊社では、昨年の農薬報道以来、サンシュユ、ソヨウ、チンピについては全ロット対応しております。またカンゾウについては抜き取り検査による確認を行っております。

ピレスロイド系農薬については、報道のあった 8 品種にはビワヨウ、ケイヒ、チンピの他にタイソウ、ソヨウが該当していることは確認しており、当社としましてはタイソウ、ソヨウ、チンピは全ロット対応、ケイヒ、ビワヨウにつきましては抜き取り検査により対応しております。

以上、現時点において分かっている状況について取り急ぎお知らせいたします。

今後とも、弊社の取り組みにご支援をいただきますよう、宜しく願い申し上げます。